

令和3年度

「利島村教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価」に係わる報告書

- 報告書の趣旨説明

- 「利島村教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」

- 教育に関する学識経験者の意見

令和4年3月31日
利島村教育委員会

(本頁は白紙です)

令和3年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

利島村教育委員会

1 趣 旨

- ・ 利島村教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について、点検及び評価を行い、課題や方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。
- ・ また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することにより、村民への説明責任を果たし、村民に開かれた教育行政を推進する。

※ 参考（根拠法令）

- ・ 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 実 施 方 法

- （1）毎年度策定する「利島村教育委員会教育目標」を対象とし、点検及び評価を行う。
- （2）点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性を示すものとし、毎年一回実施する。
- （3）施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、学識経験者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。
- （4）教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「点検・評価に関する有識者」を置く。
 - ① 「点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から教育委員会が委嘱する。
 - ② 「点検・評価に関する有識者」の任期は3年とする。（任期の延長・短縮は妨げない。）
- （5）教育委員会において、点検及び評価を行った後、その結果をとりまとめた報告書を利島村議会へ提出する。また、報告書は公表するものとする。

令和3年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施

利島村教育委員会

※ 評価基準

達成率	100%~75%	74%~50%	49%~25%	24%~0%
評語	A	B	C	D

1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の会議の運営

評価	評価根拠
B	・定例教育委員会において、新たな委員を迎え、利島の教育全般について意見交換をした。また今年度も昨年度の引き続き、新型コロナウイルス感染症関係の対応を議論し、子供たちの健康と安全を第一優先に考え、方向性を見いだした。さらには、教育委員の学校視察も実施し、授業観察、管理職との意見交換を行った。

(2) 教育委員会の会議公開

評価	評価根拠
B	・教育委員会毎月の定例会は公開としている。

(3) 教育委員会と村長との連携

評価	評価根拠
A	・学校教育の充実、社会教育の充実、文化財の保護、学童の円滑な実施等、教育委員会の活動全般にわたり、密に意見交換を行い、教育施策を実施した。 令和3年12月より新村長を迎え、利島の今後の教育の方針について意見交換を行った。 村の方針である子育てのしやすい環境づくりの観点から家庭の教育費負担軽減にも努めた。文化財保護関係では、今年度は、新型コロナウイルス感染状況を見極める中で、利島村伝統文化芸能行事（ふるさと利島に思いを寄せる日）を実施した。

(4) 教育委員の学校支援（学校訪問、学校施設点検）

評価	評価根拠
B	・学校視察を通して学校教育、学校施設等について意見交換を行った。特に新型コロナウイルス感染症対策について、子供たちの健康、安全に充分配慮するよう助言した。またICT教育の推進状況等について意見交換を行った。

2 教育委員会が管理・執行する事務

(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること

評 価	評価根拠
A	・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定されている教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興は図られている。引き続き教育大綱、教育委員会目標に則り、基本方針を定めた。

(2) 教育委員会規則・規程の制定・改廃すること

評 価	評価根拠
A	・ 教育委員会規則・規定の見直しは、必要に応じて行っている。

(3) 教育予算等の議会の議決に向けた原案を作成すること

A	評価根拠 ・ 令和4年度予算については、利島の教育の充実発展に資するべく、原案を作成し、要望した。 ・ 村財政の厳しい中ではあるが、教育の質を落とすことのないよう予算要望を行った。
---	--

(4) 利島村奨学金制度の事務に関すること

評 価	評価根拠
A	・ 奨学資金貸付事務は滞りなく行っている。「広報としま」でも村民に周知している。

(5) 離島高校生就学支援事業の事務に関すること

評 価	評価根拠
A	・ 平成24年度に立ち上げた制度であり、中学卒業時に保護者に対して広報している。利島出身の高校生は全員利用している。要綱の一部を改正し、補助金の支給期間を3年から在学期間中に、また支給額を3万円から4万円に増額することを決定し、その後も継続している。

3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 利島村教育大綱、及び教育委員会教育目標の制定・改廃

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none">・教育大綱に則り、利島村教育委員会教育目標は学校の児童・生徒のみならず、島民全体の人としてあるべき姿を想定して制定している。教育目標を中期、長期目標ととらえ、今年度の施策を具体的に表示している。教育大綱については、今後、見直しも含めて検討することが必要と考える。

(2) 人権尊重教育の推進

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・児童・生徒が人権の花の栽培を行っている。・毎年、人権作文に応募している。・毎年、講師を招聘し、道徳授業公開講座を行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、縮小し実施した。

(3) 社会性を育む教育の推進

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none">・これまで児童生徒が社会性を育む行事（島外学習、修学旅行、中学生海外ホームステイ事業、その他、社会教育分野の活動等）に対して補助金を交付し、活動の活性化を図っている。また、多摩島しょ子ども体験塾に小学生が参加し、劇団四季の観劇や東芝未来科学館、NHK スタジオパーク、東京スカイツリーなどを見学をする予定だったが、昨年度に引き続き、中止となった。

(4) 児童・生徒の他地区との交流

評 価	評価根拠
C	<ul style="list-style-type: none">・多摩・島しょ広域連携活動助成事業として（利島サマースクール）（ジュニアスキー教室）を夏期、冬季に行い、利島村と友好村の檜原村の小中学生が交流を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。また、利島村中学生海外ホームステイ事業も中止となった。

4 学校教育

(1) 人権尊重教育の推進

評価	評価根拠
A 85	<ul style="list-style-type: none">・いじめ、差別に関する取組（生活アンケート、SCによる全児童・生徒の個別面談等）の実施と、日常生活における他人との関わり方（挨拶、礼儀等）を重点とする指導を行った。・人権月間活動として、人権に関する図書を紹介し人権作文や標語づくりに取り組ませた。

(2) 個に応じた学習指導

評価	評価根拠
A 95	<ul style="list-style-type: none">・資格検定の取得に向けて、全校体制で放課後学習教室や家庭との連携に基づく学習支援活動の実施、中学校における定期考査対策として放課後に個別学力補充活動を実施した。・習熟度別少人数授業・TT授業での授業中の個別指導を行うことができた。・長期休業中の補習は、夏季休業期間の前半のみ実施した。（後半は感染症対策のため中止）

(3) 自尊・他尊感情を育て、豊かな心をはぐくむ道德教育

評価	評価根拠
A 85	<ul style="list-style-type: none">・「特別な教科 道德」を中心に教育活動全般を通して、児童・生徒一人一人の自尊感情を高める道德教育の充実に努めた。・行事や諸活動を通して異学年と意見交換や支援・協力することから、他尊感情を理解し互いを認め合うことの大切さを学んだ。・学校長が、児童・生徒への「ほめて認める指導」を推進するように、職員会議等で教職員に周知するとともに、保護者会でも同様の内容で啓発をすることで、児童生徒の自尊感情の醸成に努めた。

(4) 健康の保持・体力の増進を図る教育活動

評価	評価根拠
A 95	<ul style="list-style-type: none">・月1回、授業や広報（保健だより、給食だより、栄養士による食育講話）を通して保健指導や食育指導を行うことで、健康や食の大切さについて児童・生徒の理解を深められた。・投力向上の取組を通して、小学生は8割以上記録を伸ばした。中学生はほぼ全員、記録が昨年度と同じか更新され、平均以上が1人増えた。・ロードレース大会では、中3男子4名、女子1名が校内記録を更新した。

(5) 小中一貫教育の継続

評 価	評価根拠
A 90	<ul style="list-style-type: none">・小中教員の協働による学習指導が定着し、授業の事前・事後に、小中教員の授業についての打ち合わせを行う等、一層の充実が見られた。・9年間の学習指導計画の作成に向けて、月1回の年間指導計画作業日を設定し、小中教員による教科部会を実施できた。・多くの行事が小中合同で行われており、小中教員が協働して企画・運営をことで、各学年の児童・生徒の発達段階を確認できていることは本校の強みである。

(6) 生活指導の充実

評 価	評価根拠
A 90	<ul style="list-style-type: none">・生活指導部を中心として、問題が発生する前に日頃の生活での乱れに気を付けて、問題行動等の防止対策（注意喚起・事前指導）を行っている。学期末の保護者会では、生活指導主任から講話を行い、保護者との共通理解を図った。・職員会議（月1回）やいじめ対策委員会での児童生徒情報交換を通して、定期的に児童生徒の生活指導上の問題について情報共有している。・生活指導上の問題が発生した際は、事実確認に基づき管理職及び生徒指導部が指導・対応を検討し、関係教員やSCと連携して本人及び家庭と対応している。

(7) キャリア教育の推進

評 価	評価根拠
A 80	<ul style="list-style-type: none">・中学生の職場体験は、感染防止対策として、島外・島内共に今年度は中止とした。中学1年生は、職業調べと島外学習での牧場での職場体験を実施する。また、小学校では、キャリアパスポートを活用して、児童生徒の職業観・勤労観の醸成を図るとともに、キャリア教育の4能力（人間関係形成・情報活用・将来設計・意思決定）の発達段階的向上に努めた。

(8) 故郷教育の推進

評 価	評価根拠
A 90	<ul style="list-style-type: none">・故郷教育三カ年計画に基づき、今年度は「利島のむかし」をテーマとし、地域の方、教育委員会の協力で、はしけや大石山遺跡、四手集水等、利島の昔について考えることができた。・開校記念朝会で、11月に、村長から利島での小・中学校時代の話全校で聞き、当時の生活を児童・生徒は興味深く聞いていた。

(9) 家庭・地域に開かれた学校

評 価	評価根拠
A 90	<ul style="list-style-type: none">・運動会、文化祭、ロードレース、展覧会等に、保護者に参加いただき、広く連携が深められた。コロナ禍で、地域の方の参加は運動会と文化祭は求められなかった。今年度・昨年に度着任した教職員と地域とのつながりが例年よりも不足することになった。・年3回の学校公開週間、年5回の学校公開日を設定し、教育活動を参観できる機会を提供した。・小学低学年の社協訪問、音楽部の社協での合唱はできなかったが、リモートで社協の利用者さんから小学生が、昔遊び等について教わることができた。・学校ホームページの公開、通信（学校便り、学年通信、他）の家庭・地域への配布を通して、教育活動をより具体的に知ってもらうようにした。・年3回の学校運営協議会で学校状況について情報共有する一方で、地域代表として協議員から学校への地域の声を聞き、学校運営に生かした。

(10) 学校組織を生かした学校経営

評 価	評価根拠
A 90	<ul style="list-style-type: none">・毎朝の管理職打ち合わせ等、管理職間の報・連・相が十分に行えた。・企画運営委員会において、小中分掌主任に経営方針に基づいた業務遂行の徹底を図ることで、自ら率先し他教員への指示・調整を行わせることができ、円滑に運営が進められた。特に、小学校の教務主幹は、管理職への具申を積極的に行い、教職員への伝達やとりまとめを昨年度よりも的確に行うことができた。・教員一人一人の能力を生かせる業務に取り組みせ、実績（成果）を挙げることで自信と意欲が高まり、組織貢献力が育成できた。

(11) 教員としての資質・能力向上のための研修活動

評 価	評価根拠
A 85	<ul style="list-style-type: none">・島しょ研修、実践事例研修、校内研究会を通して、新学習指導要領における新しい教育、特に、見通す力の育成を積極的に学ぶことができた。荒天により講師が来島できないときにも、リモートで意見交換や講話で話を聞くことができた。・自己申告時に他教員向けの校内公開授業を年間3回実施し、異校種・他教科の授業から指導方法の工夫・改善について学ぶ機会とした。

(12) 学力向上を図るための方策と成果

評 価	評価根拠
dA 90	<ul style="list-style-type: none">・各教科で「授業改善プラン」を作成し、児童・生徒の実態に応じた指導の徹底を図った。・基礎学力定着を図る取組（東京ベーシックドリル・副教材等の活用）に基づいて、基礎知識や技能の反復学習を取り入れることで、概ね定着が図れた。・国の学力調査では、都の平均正答率よりも、小6の国11%、算12%高く、中3の国2%、数7%高かった。都の学力調査は、今年度から意識調査のみ。

(13) 外国語指導、英語指導の取り組みとその成果の

評 価	評価根拠
A 90	<ul style="list-style-type: none">・ALTと中学校英語科が、小学校の担任と共に、小1・2学年では毎週1回の朝の外国語活動、小3・4学年では年間35時間の外国語活動、小5・6学年では年間70時間の英語の指導を実施した。また、小学生対象に、週1回の英語部を開設し、EGT（English Game Time）を年2回実施した。中学校英語科教員の意欲的な指導により、小学校担任の指導技術が向上しているとともに、小学生の英語・英会話への興味関心・技能が高まっている。・中学校において、全学年毎時間ALTによる指導時間を確保し、ネイティブ英語の聞き取り、英会話での口語表現、英作文等を計画的・重点的な学習として行っており、英語力・英会話力が高まっている。・中2年対象のオーストラリア留学が今年度も中止のため、文化祭での海外派遣報告等は実施できなかった。

(14) G I G Aスクール構想実現への取り組みについての成果と課題

評 価	今年度、全児童・生徒・教職員へ、一人1台のクロームブックが配備された。
A 80	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・ICT支援員による児童・生徒及び教職員への研修が行われ、タブレットの起動から終了までと、主要ソフトの基本的な操作を、児童・生徒が10月末にはできるようになった。・学習ソフトが、小学校には「すらら」、中学校には「スタディサプリ」が導入されており、登校後の朝の時間やクロームブック持ち帰り推奨日の水曜日に、学習ソフトの利用が進められた。・「クラスルーム」というオンライン学習のソフトを活用し、金曜日朝にはリモート朝会を全校で行った。また、欠席生徒に、同ソフトを活用して、授業を配信し、自宅での授業内容の確認を可能にした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと教育での小1・2と社協の利用者や社会科での小4と江東区の小学校とのリモート交流、国際理解教育での中学1年生とグアテマラの方とのリモート交流等、今まではできなかった経験が容易にできている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスワードを含めた、セキュリティをより高める。 ・週当たりの持ち帰りの回数を増やせると良いが、持ち帰らせた際の課題の出し方の工夫が必要である。
--	---

(15) 新型コロナウイルス感染症感染予防対策への取り組み

評 価	評価根拠
A 80	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の校内消毒（主に、手すりやドアノブ等、児童・生徒が日常的に触る箇所。緊急事態宣言期間中は、机・椅子を含む。） ・児童・生徒には、朝会での講話、保健だより、担任指導等で感染症予防について注意喚起を行い、石鹸での手洗い、うがいを日常的に意識させている。 ・保護者には、通知を配布し、具体的な感染予防対策を知らせている。 ・教職員には、国や都の感染予防対策やガイドラインを示すとともに、職員会議等を通じて、管理職から対策の徹底を促している。

5 社会教育

(1) 芸術文化事業の実施

評 価	評価根拠
B	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都島しょ芸術文化推進事業として、東京都交響楽団員による弦楽四重奏の演奏会を実施する予定であったが、中止となった。新型コロナウイルス感染症に配慮し、小さな単位で「利島の自然を撮る会（写真）」を2度行った。「江戸独楽で遊ぼうの会」を計画をしたが、コロナ感染の急拡大により、予定を変更せざるを得なかった。また都の指定史跡である<大石山遺跡>保存整備事業を終了し、完成セレモニーを講師を招いて実施した。また現地で中学生が「利島の遺跡について学ぶ会」等を行った。

(2) 家庭への教育支援推進事業

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の範囲で教育費の無償化を図っている。 ・就学援助・利島村奨学金貸付・離島高校生就学支援事業の執行等、学校保護者負担の軽減に努めている。 ・一昨年度より離島高校生修学支援費補助金額を3万円から4万円に増額し、継続している

(3) 文化財保護の充実

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・学校のふるさと学習に関して、教育委員会として、郷土資料館の展示品や利島の昔の生活について子どもたちに説明した。・利島村伝統文化芸能実行委員会と連携をし、「ふるさと利島に思いを寄せる日」(伝統文化行事)を行い、失われつつある利島の伝統文化の継承に努めるべく計画をし、実施した。今後も東京都指定の史跡や村の文化財の保存・整備を進める。・整備が完了した東京都指定史跡大石山遺跡の活用をさらに図っていく。

(4) 地域教育力の活性化

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・放課後子供教室において、子どもたちの居場所作りの一環として、教育課程外の指導を支援している。指導に当たっている団体、また個人に対して教育委員会として補助金を出し支援した。・村民の活動を応援すべく各同好会へ活動に補助金を出している。また、今後とも教育委員会だより等を活用し、それぞれの活動の活性化を図っていききたい。・文化財保護審議会答申を踏まえ、今後とも利島村伝統文化芸能事業を行い、失われつつある利島の伝統文化の継承に努めていききたい。

(5) 子供虐待の防止に関する活動の推進

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・村全体で子供の面倒を見るという慣習は利島の良さであり、村民の理解、協力を得て続けていきたい。子供への虐待はないものと認識している。

6 放課後児童クラブ(学童)について

(1) 放課後児童クラブの運営

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルスの影響で縮小して活動を実施せざるを得ない時期もあったが、一年を通して円滑に運営できた。・学習(宿題)指導が定着し、児童が意欲的に取り組んでいる。・指導員の連携がよくとれており、混乱もなく順調に運営できた。・保護者との連携にも努めている。

(2) 通所児童の状況

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・主に小学校低学年児童が参加しており、学習と遊びのメリハリをつけ、楽しく活動している。学習指導についても、きちんと習慣化されており、毎日整然と行われている。・安全に留意し、特に問題なく活動できた。また学童として展覧会にも出品した。

(3) 新型コロナウイルス感染症感染予防対策の取り組み

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・手洗い、換気、消毒等、感染予防対策を徹底し、日々指導を行っている。・指導員が常に子供たちの健康状態について情報交換をし、特に問題もなく、活動できた。

7 その他

(1) 施設・設備

評 価	評価根拠
A	<ul style="list-style-type: none">・郷土資料館の活用については、来館する方々に対し、必要とする情報を提供できるよう努めた。また大石山遺跡の活用については、今年度、オープニングセレモニーを皮切りに、学校の授業等で取り上げるなど活用を進めてきたが、今後さらに活用の充実を図っていきたい。社会スポーツ施設であるテニスコートの活用にも努めた。・郷土資料館の整備については東京都とも協議し、引き続き進めていく。

(本頁は白紙です)